

古堤街道を往く②
「農民感謝碑と坐摩神社」
近世の新田開発の遺産③



平野屋新田会所跡の北側には、クスノキの大木をはじめ、ムクノキやアカメガシワなどの木々が生い茂る90平方メートルほどの土地があります。その北東部の片隅に漢文が刻まれた石碑が南向きにひっそりと立っています。この石碑は、過去の災害時に地主の高松氏や会所支配人の植村氏が行った手厚い救済活動に感謝するため、明治25年(1892)7月に地元の農民によって建立されたもので、農民感謝碑といわれています。碑文からは、農民と会所との強い絆で結ばれていたことが分かります。

れました。もともとは平野屋新田会所を守護する屋敷神でしたが、天保11年(1840)からは深野南・河内屋南新田の氏神となりました。本殿は宝暦年間(18世紀半ば)建築の流造りで、拝殿前の狛犬は弘化3年(1846)に献納されたものです。明治時代に奉納された絵馬には平野屋・谷川・南新田元町の3基の地車が宮入りする様子が描かれており、現在も10月の秋祭りの際に同じ光景を見ることが出来ます。当社は、平野屋新田会所の成立期から当地の変化を見つめ続けた貴重な歴史遺産といえるでしょう。(生涯学習課)

農民感謝碑の北向かいには、立派な表構えの家々が並んでいます。ここには新田開発の際に移住してきた人々の子孫が住まれています。ここから東へ進み、途中で南側に抜ける細い路地に入っていくと、ほどなく坐摩神社の社殿が見えてきます。当社は、享保13年(1728)に撰津園一之宮として名高

い大坂久太郎町の坐摩神社から勧請さ



農民感謝碑



坐摩神社



地車を描いた絵馬

古堤街道を往く③
どんばの伏せ越し樋と又の境界石」
近世の新田開発の遺産④



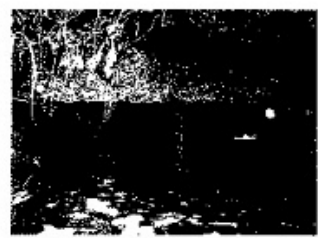
坐摩神社の社殿の裏手から50メートルほど東へ行くと、ゆるやかにカーブを描きながら南北に走る道路に出ます。この道路は、昭和40年前後に大阪府によって川筋が付け替えられるまで鍋田川の流路でした。龍間の山間部に源流を発し中垣内方面から西流してきた鍋田川は、現在平野屋公民館の建つ場所へ北向きに進路を変え、深野南新田を東西に横断して流れていました。付け替え前の鍋田川は、土砂の堆積によって周辺の田畑より川床が高くなつた天井川で、大雨が降るとたびたび決壊していたそうです。特に進路が急激に変わる公民館付近は砂がたまりやすく、日頃から地元の人々が浚渫を行っていました。また、その砂は良質で、資材に使用するため建設業者が取りに来ていたそうです。

再び道路に戻り南に20メートルほど行くと、古堤街道との交差点に着きます。次回からは、中垣内地区の文化財を紹介します。(生涯学習課)

公民館から北へ200メートルほど行くと、道路の下を東西に水路が流れている場所があります。水路際まで近づくと、道路の真下に石製の樋が見えます。制作年代は不明ですが、地元では「どんばの伏せ越し樋」と呼ばれています。「伏せ越し」という名前からも分かるように、かつてこの樋は鍋田川の地下に水路を通すために設けられたものでした。ここから50メートルほど南に戻ると東側に向かう細い道があり、30メー



旧鍋田川の流路跡(平野屋公民館付近)



どんばの伏せ越し樋



又の境界石